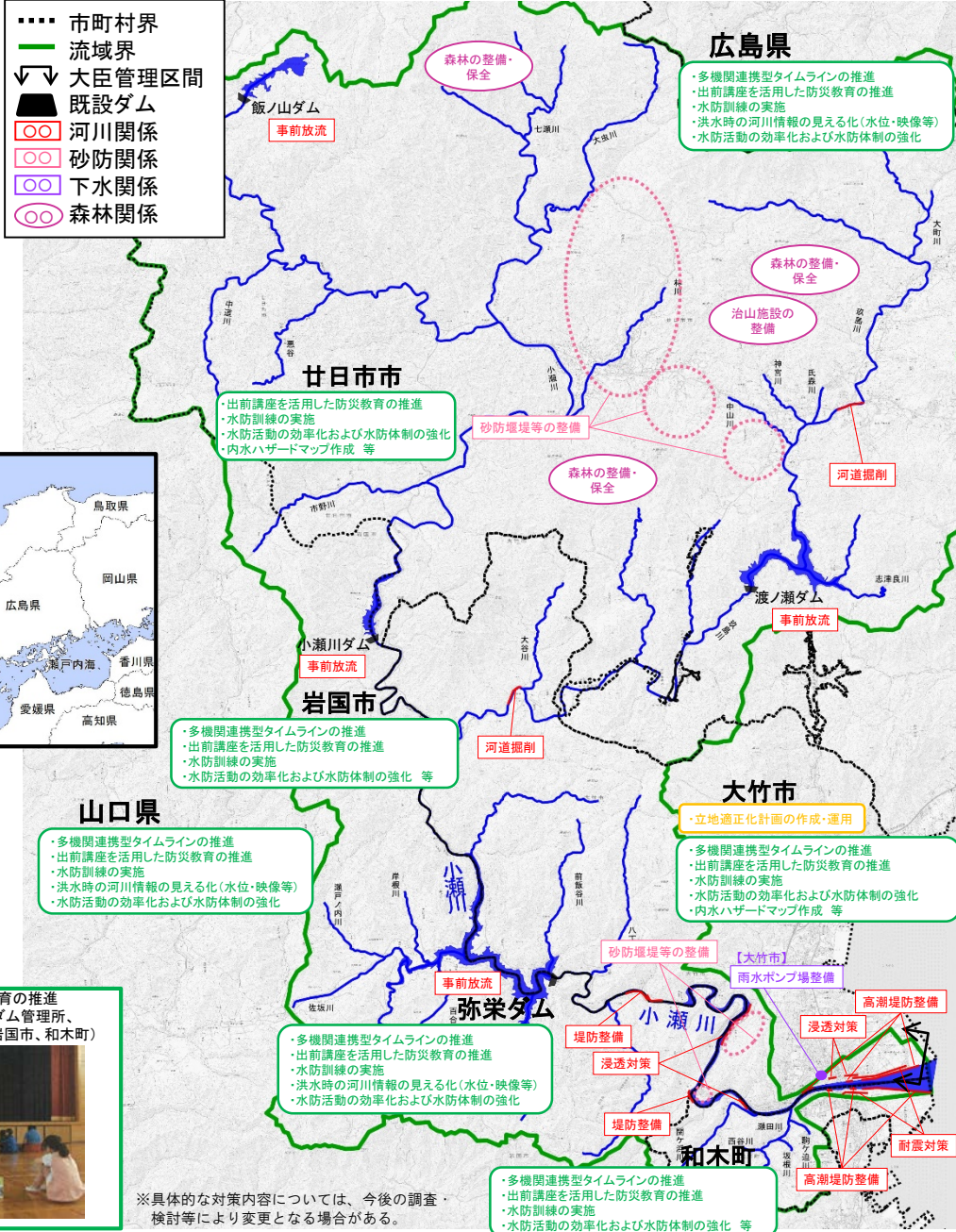


小瀬川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～コンビナートを中心とした地域の産業と暮らしを守る流域治水対策の推進～

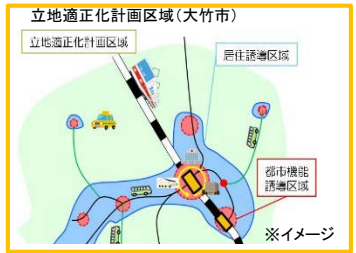
- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、小瀬川水系においても、事前防災対策を進める必要があります。
- 小瀬川は、河口地区に「大竹・岩国石油化学コンビナート」として瀬戸内工業地域の工業地帯を形成し、人口・資産が集積しています。また、河口地区の地盤高は洪水時の河川水位より低い地形となっており、堤防が決壊すると、甚大な被害が発生するおそれがあることを踏まえ、堤防整備や内水被害を軽減する排水機能増強などの事前防災対策を進めます。
- 以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大の平成17年9月洪水と同規模の洪水に対し、家屋等の浸水被害を防止し、流域における浸水被害の軽減を図ります。あわせて、迅速かつ適切な情報収集・提供体制を構築し、ホットラインを含めた確実な避難行動に資する情報発信などの取り組みを実施し「逃げ遅れゼロ」を目指します。

●●●● 市町村界
— 流域界
↕ 大臣管理区間
■ 既設ダム
○ 河川関係
○ 砂防関係
○ 下水関係
○ 森林関係



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・高潮堤防整備、堤防整備、耐震対策等
- ・雨水幹線・雨水ポンプ場等の整備
- ・森林の整備・保全、治山施設の整備
- ・利水ダム等(弥栄ダム、小瀬川ダム、渡ノ瀬ダム、飯ノ山ダム)における事前放流等の実施体制構築(関係者:国、県、中国電力(株))
- ・砂防堰堤等の整備
- ・改修又は廃止する農業用ため池について活用を推進
- ・農地等の保全 等



■ 被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画の作成・運用

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・多機関連携型タイムラインの推進
- ・出前講座を活用した防災教育の推進
- ・水防訓練の実施
- ・洪水時の河川情報の見える化(水位・映像等)
- ・内水ハザードマップ作成 等



■ グリーンインフラの取り組み
詳細次ページ

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。